

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690800071		
法人名	トータルメディカル津沢株式会社		
事業所名	グループホーム ひだまり絆		
所在地	砺波市宮森460-1		
自己評価作成日	令和3年5月10日	評価結果市町村受理日	令和3年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和3年5月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所8年になります。当時からの入所者様も元気で生活されています。絆では少しでもグループホームでの生活を楽しんで頂き、穏やかに毎日を過ごされるよう支援をしています。そのためにも季節を感じて頂けるよう外出の機会を増やしたり(現在はコロナ禍で外出は出来ませんが、この春一人ひとりに短時間で桜の花見ドライブに行ってきました)美味しい料理を食べてもらいたいと毎日の食事に工夫を凝らしたり、季節行事には、注文お弁当など提供しています。個別ケアを行い尊厳を守りながら、利用者様の気持ちに寄り添った支援をしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人理念「尊厳の保持」、事業所理念「いつも素敵にあなたらしい人生を」の実践にあたり、特に『スピーチロック』(言葉の拘束)防止の学びや実践に取り組んでいる。職員の言動は、利用者の行動障害や不安を引き起こす要因となる事を認識し、身体拘束として捉え、定期的な研修に加え、職員に対し認識や理解度についてアンケートを実施している。結果を数値化してフィードバックする等、特にスピーチロック防止への取り組みの成果が利用者の穏やかな表情からも伺える。  
 ・災害用備蓄に関して、1人×3日分が箱にセットされ事業所内に保管されている。その運用にあたっては、賞味期限前に災害食をおやつや食事に提供するなど、災害食を一定量保ちながら非常時に対応出来るよう配慮している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳の保持、安全と安心、地域との共生を法人の理念として、絆でも「いつも素敵にあなたらしい人生を」を掲げ、各職員は認識している。	法人の理念に加えて、4・5年前より、ひだまり絆の理念「いつも素敵にあなたらしい人生を」をつくり、事務所や事業所内の目に付く高さに掲示し、ミーティング等において意識付けを続けている。	掲示や繰り返し伝えることで、職員は理念を理解している。今後は、どのように活かされているかについて話し合われることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の喫茶店をイベント時に利用させて頂いたが、コロナ禍では交流していない。	町内会に加入し、回覧板等により地域の情報は把握している。新型コロナウイルス感染症が未だ収束せず、これまで地域で行われていた交流活動も自粛が継続し、交流が図れない。そのような状況でも、散歩すると近所の方が野菜をくださる等、地域との交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での情報発信は行っていたが、コロナ禍で対面での集合が出来ず、書類でのお知らせを行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は重要な情報収集、発信源である。例年であれば年6回のところ、昨年度はコロナ禍のため2回しか集まりは出来なかった。	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が比較的落ちついている9月、11月に、感染予防に努めながら対面での会議を2回実施、4回は書面開催となった。会議録は玄関ホールに掲示している。	コロナ禍の為、面会等制限をしている。会議録の掲示は、ゆっくり閲覧出来る状況とも言い難い。交流や面会が制限され、なかなか状況も伝わりにくいことから、会議資料を利用者や家族に配付する等の工夫で、周知と理解がより深まることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	口腔ケアについて健康センターへ連絡、相談など行い協力頂いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議へ出席している。また、健康センターが取り組む「口腔ケア事業」を活用し、訪問歯科医の紹介や助言・指導を受けている。地域包括支援センターが保険者内にあるグループホームからの状況を把握し、空床情報を発信する等協働する姿がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本行っていない。絆では、スピーチロック(言葉の拘束)について力を入れており、職員に徹底している。全体研修に取り入れ、グループホーム全体でのアンケート調査も行っている。	事業所前には大きな用水路があるため、玄関施錠を行っている。利用者の「外へ出たい」という気持ちの把握に努め、出来るだけ応えている。法人内で3ヶ月毎に「身体拘束等適正化対策検討委員会」が開催され、身体拘束について振り返りと学びの機会が設けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	日常から利用者様の変化に注意を払い、皮膚、身体状態の観察を行うと共に、職員の行動や言動等見過ごさないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書や重要事項説明書に基づいて署名、捺印をいただいている。家族様に不安が無いように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、日頃より家族様との関係性を意識し、要望を言いやすい環境作りに努めている。	意見箱は設置されているが、今のところ利用はない。利用者には日常的に、家族等には状況報告と併せて意向を把握するよう努めている。利用者アンケートでは、事業所は「話を聞いてくれる」「願いや要望をわかってくれている」と概ね回答が得られている	昨年よりコロナ禍において、運営推進会議も書面開催となったり、会議には家族代表のみが参加している。今後は様々な方法で利用者及び家族等から得られた意見や要望を会議やミーティング等で検討や共有し、運営に反映されることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員が意見を言いやすい環境を心がけている。日常又はミーティング時に個々の思いを聞き、運営に反映させている。	管理者は年2回、職員に対し個別面談を実施、就業環境等の要望を聞き、ワークライフバランスに配慮している。また、ユニットミーティングを毎月実施し、要望や個別ケア、業務を検討する機会を設け、管理者は運営法人にも報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍での研修会は中止していたが、年間計画を立て、書面での全体研修を年6回、グループホーム研修を年6回とし、毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、外部実習等の活動には参加できなかった。地域包括支援センター研修会のサービス事業所連絡会では情報の共有は、出来ていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人、家族様との話し合いの中で、入居後も今までの生活と変わりの無い様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に現在困っている事や要望をお聞きし、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設、在宅サービスについても選択肢としてある旨、都度、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特徴として、生活を共にするという意識の基、食事や洗濯に関連して、日常生活のお手伝いを積極的に、お願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の体調について、いつもと違う様子であれば、家族様に随時電話等で報告している。毎月の様子を月初めにお便りでお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来は外出や地域の祭り、外食等、利用者様の楽しみがある生活の支援に努めていた。コロナ禍では出来ていないが、ドライブは短い時間だが行っている。	新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、面会制限を設けている。できる限り面会の機会が維持できるよう、ベランダ側ガラス越しやビデオ通話による面会をサポートしている。コロナ禍以前は、カフェへ出掛けたり、墓参りへ行く等の支援を実施していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニットの交流は随時出来ている。利用者同士はトラブルが起きないよう座席などの配置、配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの相談に関しては積極的に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや、やりたいことなど声掛けしながら聞き、要望に応えられるように努めている。	利用者のそばでゆっくり話す時間を意識して持ち、得られた情報は職員間で話し合い、共有を心掛けている。勤務年数の長い職員が多く、小さな変化にも気づきやすく、利用者職員は信頼関係が深まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も、日々の会話の中での聞き取りや情報は記録し、職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は、一人ひとりのリズムもあり、全く同じではない為、個別に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から得た情報は、申し送りやミーティングで共有している。介護計画についても、家族様の意向を聞き、更新している。	受持ち制で1～2名の利用者をモニタリングしている。タブレット端末の利用により、従来使用していた24時間シートをより充実した内容で活用している。家族等の思い・意見を反映した計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末を使用し、毎日細かく記録するように職員間で心掛けている。ケアプランにつながる内容として意識して記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍である為、面会は出来ないが、ご家族様への電話の取次ぎやガラス越し、リモートでの対面等を柔軟に行いながら元気な様子をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域との交流やボランティアの来所などは中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望もあり、15名の方が近隣の診療所の訪問診療を受けている。	近隣の診療所から2週間に1回の訪問診療を受けている。入所前のかかりつけ医の訪問診療を受ける利用者もいる。緊急や夜間診療にも対応できる体制ができています。専門医の受診が必要な場合は家族付き添いで受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名が在籍しており、申し送り状態で状態を把握している。問題があれば看護師より担当医師に連絡する体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には、利用者の情報をまとめた介護サマリーの情報提供を行っている。退院に向けても情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	令和3年2～4月にご家族様、担当医師、管理者、看護師らと重度化や終末に向けて個別に話し合う場を設けた。	入所者は長期利用の傾向にある。重度化や終末期の介護については職員研修を継続的に行っており、対象の入所者があれば家族と関係者で話し合いを重ね、看取りへと進めている。死期が近くなるころまで支援し、その後、家族の希望に沿って医療機関へ転院する事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、担当医師や看護師との連絡が取れるようになっている。またAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、掲示した防災マップで立地を把握して年2回の避難訓練を実施している。地震や水害については、今後地域との協力体制を整えていきたい。	居室は1階部分であり、田園地帯なので、火災発生時の避難は定時の訓練で対応できている。水害時は一部2階建て部分に移動する訓練をしている。避難場所に地域の公民館と体育館を利用できる。備蓄は一人3日分の食料が準備され、ローリングストック(古いものから順次消費し、消費した分だけ補充する方法)利用もされている。	予測できない地震対応も重要である。今後マニュアル整備などを行い、利用者の安全を守る内容で地域協力体制を整えていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格の把握に努め、個々に合った声掛けや対応を行っている。尊厳を無視した言葉掛けを行わない様、スピーチロック(言葉の拘束)の研修を行っている。	利用者との信頼関係が深められるよう、個別の日常を大切にしている。スピーチロック防止の徹底を目指して年間の職員研修に重点的に取り組んでいる。尊厳が損なわれるような場面があれば、多くの場合、その場で職員同士で話し合える状況にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の思いを伝えやすい関係づくりに努めている。レクリエーションや飲み物、服などご自身で選択、決定できる声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の生活スタイルは決まっているが、個々の生活習慣を理解し、それに沿った生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカット、カラー、パーマは月に一回の理髪サービス希望時に行えるようになっている。イベントのあるときは、女性の利用者には化粧をして、お洒落を楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食の好き嫌いの把握に努め、苦手なものは代替品を提供している。畑での収穫や、食材の皮むき、茶碗のふき取りなど、個々の好まれる作業を一緒に行っている。	食材は近くのスーパーなどで毎日調達している。農園の野菜やご近所の農家からのいただき物もあり、新鮮な旬を味わうことができている。食事中はテレビを消して静かなBGMを流し、食事に専念できる雰囲気を作っている。片付け等については、手伝える人は少なくなってきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量のチェックを行っている。水分摂取量が少ない方には、好みの飲み物を提供するなど、摂取量の増加を図っている。本人にとって食べやすい食器や形態に、適時変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に適したケア用品を使用し、必要に応じて声掛けや介助にて、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、おむつの方でもトイレで排便できるよう、2人介助で対応している。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置し、安全にご自身で排泄できるよう、対応している。	排泄の自立支援に努力している。ポータブルトイレ使用者は複数あるが、居室ごとにオゾン発生器を使用し消臭に努めている。個別の便秘の対応を散歩・水分・食べ物・下剤などの調整で実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分補給や、乳製品、食物繊維など便通がよくなる物の提供を行い、必要に応じて腹部マッサージ、散歩などの運動を勧めるなど、下剤だけに頼らないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は週2回と決まっているが、ご本人の希望や体調に合わせて、日時をずらしている。入浴時は、できるだけくつろいだ気分で入浴して頂けるように、努めている。	一般浴槽と特殊浴槽があり、無理なく安全に入浴が行われている。入浴剤には馴染みのものを愛用している。様々な理由で入浴できない場合は、「足浴」をする人も複数いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が夜間の安眠に繋がるよう、努めている。また、居室内の温度調整や光量の調整など、環境整備を行っている。医師の判断で眠剤が必要な方には、内服していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、ファイルにて常に確認できるようになっている。薬の追加や変更は、記録し職員への周知を行なっている。服薬後の利用者の状態を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や畑、または裁縫など、それぞれの好まれる事や物を理解し、その方に合った時間の過ごし方ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍のため、外出や家族様との面会も難しくなっている。季節を感じて頂くために、近所の散歩やドライブなど、感染予防を考慮した外出のみとなっている。	年間計画で立案した外出はコロナ禍で実施できなかった。建物東側の外ベランダを使っての歩行や日光浴を積極的に行った。近隣のカフェへ出かけることもできなかった。誕生会や好みの飲み物を提供して、気分転換を図る工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失などによるトラブルを避けるために、自室での管理は遠慮して頂いている。希望時は、一緒に買い物に出かけたり、職員が代わりに買い物したりするなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由にできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房やエアコン、加湿器、空気清浄機などで、温度や湿度の管理を行っている。利用者様の日々の写真を飾ったり、季節の花や利用者様の作品を飾ったりしている。	快適な温度管理ができています。利用者が作成する貼り絵も大作で、毎月新しく作成し展示され、楽しみの一つとなっている。リビングにはソファが置かれ、自由に利用できている。一日の大半は明るいリビングで過ごしている。季節の花も年間を通して飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に両ユニットの行き来ができ、それぞれ親しい方と、思い思いに交流されている。廊下のソファはゆっくり過ごせる場所にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンスやイス、テレビなど馴染みの品を引き続き使用されている。ご家族との写真などを飾ったりしている。	居室はその人の思いが残り続けられるような、写真や色紙・飾り物が置かれている。個人持ちのテレビも複数人が使用している。個人の似顔絵が表札として掲げられているのも特徴的である(絵の得意な職員が作製)。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害となる様なものは置かず、居室前に名前や目印となるものを置いている。トイレは、一目で分かるように表示し、パッド置き場を設け、ご自身でパッド交換が出来るようにしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	掲示や繰り返し伝えることで、職員は理念を理解しているが、今後、どのように活かすか話し合われていなかった。	ひだまり絆の理念の「いつも素敵にあなたらしい人生を」は4～5年前より掲げており、職員に浸透してきている。さらに利用者様に寄り添った目標を新しく考えていきたい。	職員にアンケートを取り、新しい目標を設定していく。設定後はミーティング時など、職員の話合いの場において理念を職員全員で復唱する。	6ヶ月
2	35	利用者の安全を守るマニュアルが整備されていない。地域の皆さんとの協力体制が出来ていない。	地域の皆様と情報交換を行い、災害時の避難について協力体制を確立する。災害発生時の初動対応を、職員全員に周知確認し、災害発生時に適切な行動を取れるようにする。	市や地域の皆様から得た情報をもとに、避難場所や避難方法について職員間で討議する。討議した内容をもとに、避難マニュアルを作成し、全職員に周知すると共に役割分担などを決定する。	6ヶ月
3	10	昨年よりコロナ禍において、運営推進会議も書面開催となったり、会議には家族代表のみが参加している状況であり、利用者・家族からの要望や意見が運営に反映されていない。	運営推進会議や意見箱を通して、ご家族様や地域の皆様と情報交換を行い、様々な面で協力体制を確立する。ご家族様の意見やご要望について、引き続き積極的に耳を傾け、施設の運営に反映させる。	地域の方々とは主に運営推進会議を通して、情報や意見を伺う。コロナ禍である現在では、電話連絡などを活用し、情報や意見を採取する。ご家族様に対しても電話連絡や文書によって、本人の状況を説明し、またご家族の要望をヒアリングし、介護サービスや施設運営に反映させる。	6ヶ月
4	4	会議録は、掲示のみなので、ゆっくり閲覧できない状況にある。	会議を通して得た情報や意見を、事業所の運営に反映させる。コロナ禍が鎮静化した後は地域の行事等に積極的に参加し、地域の方々との交流を深め互いに協力関係を構築し、施設内でのサービス向上に努める。	現在も集まったの会議を行うのは難しいと思われる。今後もしばらくは、書面開催が中心となると予想される。今後2ヶ月に1度の運営推進会議の書類の内容を家族様に送付し共有していく。	6ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。